

## オクトパス 20周年

日本香港協会広報委員会副委員長 小柳 淳

香港のIC式交通乗車券「八達通/Octopus/オクトパス」が2017年に20周年を迎えました。日本のスイカやパスモ、イコカなどと同様に改札口などにタッチして運賃を支払うもので、何回でもお金をチャージして使うことができます。実はオクトパスの心臓部であるICはソニー製フェリカで、基本的にはスイカなどと同じものです。オクトパスが登場したのはまさに香港返還の年、1997年でした。日本のスイカ導入の約4年前のことです。

導入当初のオクトパスのカード裏面には最初の参加運輸機関のマークが記載されています。シティバス、KCR（九廣鐵路）、MTR（地下鐵路）、KMB（九龍バス）、HKF（香港フェリー）の5つです。KCRはMTRと合併しMTRとなり、HKFは旅客輸送を廃止し、2つがいまはなく、20年間の変化を感じます。逆に新たな交通機関の参加もあって、香港中の乗り物をカバーしています。ただ、赤いミニバスやタクシーでは使えるのは稀です。鉄道と地下鉄ではオクトパス利用の場合は運賃が1割程度安く、バスや鉄道での乗継割引などはオクトパス利用時に限られるのも香港らしい割切った方法です。オクトパスの発行枚数は3,300万枚以上で、約740万の香港人口の4倍以上に達しています。なお、初期に発行されたオクトパスは2018年1月20日に使用停止になります。現在初期カードは交換が行われています。

利用分野も拡大していて、スーパーやコンビニ、ファストフード店、飲料自販機などで使えますし、チャージは駅以外でもコンビニなどでできます。そのほか駐車場やパーキングメーター支払、企業や学校内の出退管理などにも広がっていて、オクトパスがあれば丸1日生活ができてしまうほどです。急速・広範な普及のため、それ

以前から進出していた電子マネーMondexとVisa Cashは消えてしまいました。カード型の他に、腕時計組込式やキーホルダー、ペンダント型などが随時発売されます。最近出た、伸縮する棒の先に手のひら型のオクトパスが付いているものは、車に乗ったまま駐車場の料金を払いやすいですよという触れこみです。種類の賑やかさと楽しさは日本とは比較になりません。

中国との往来が増えている今日、境界の両側で使えるカードも発行されています。香港と深圳で使える「互通行」、香港と広州など広東省内で使える「八達通・嶺南通」です。後者はシステムが異なるため、1枚のカード上に2種のICを載せています。

香港に仕事や観光で訪れるときは、空港ですぐオクトパスを1枚買ってもらうのがお勧めです。



左上から時計回りに、20周年記念カード、10周年記念カード、現在流通している通常カード、初期カード裏面

2017年12月発行（禁無断転載）

### 目次

オクトパス20周年	1
私の人生と香港（第三の故郷）の思い出—1979年から2016年—	2
高知から香港へ〜グローバルビジネスにおける海外初出店〜	3
「第18回香港フォーラム」&「全国協会交流会」開催報告	4
華麗なるショーとパーティーの夜、「Fashion Hong Kong」を東京で開催	6
連合会・各協会便り	
東 京：第47回ビジネス懇話会	7
関 西：アジアフォーラムに参加して	8
中 京：ワールド・コラボ・フェスタおよび日中友好行事報告	9
九 州：イノベーション都市・深圳の可能性	10

山 形：7月香港訪問同行報告	11
北海道：香港貿易発展局幹部の北海道訪問	12
宮 城：女性部会が「長岡まつり大花火大会見学ツアー」にて研修会 YOUYOUクラブ部会が「芋煮会」を開催 香港から「グルメ関連メディア」を招聘	13
沖 縄：沖縄日本香港協会総会開催 「沖縄ナイト in 香港2017」開催	14
広 島：平成29年度通常総会・交流会開催 香港と広島交流	15
新 潟：地方への香港インバウンドの誘い	16
高 知：香港・食品セミナー&商談会開催	17

## 私の人生と香港（第三の故郷）の思い出—1979年から2016年—

田中 稔

私の財布には1979年エリザベス女王刻印の香港2ドル硬貨があります。

2009年7月から香港華僑で世界一のセーター専門メーカーの日本向け責任者として念願の香港在住生活が始まり、久しぶりに行ったRepulse Bayのビーチで散歩中に偶然に拾った「御守」です。その時に遠い昔、映画『慕情』を見て、香港に憧れた子供時代から、1979年まさに初めて商社マンとして、お客様と一緒に出張した香港と台湾が思い出されました。出張報告に書いた「香港の人口398万人」今でも覚えています（現在は732万人）。その時に訪問したセーター会社に、巡り巡って、2009年に着任するとは、不思議なことだと人生のご縁を感じずにはいられませんでした。

1976年商社の繊維部門で生まれて初めての関西の生活を「元気いっぱい」をモットーにスタートし、ソ連邦貿易部隊から3年目に国内アパレル取引に異動し、国内縫製から海外生産にシフトしていた時代の先鋒を切りました。当時の大阪は「日本のマンチェスター」と言われた繊維産業隆盛期から陰りが出て、1980年代後半には東京に多くの企業が市場の重点を移していく流れをつぶさに体感したものです。1988年1月に憧れのニューヨーク駐在員として転任するまで、沢山の香港出張を繰り返して、香港が大好きになりました。最近では感じられなくなった熱気ムンムンのセントラルからCauseway Bay (CWBという言葉がもう今では遠い昔のようですが)の街並みと人の流れ、とりわけ欧米人には憧れもあったのか？ まぶしいものを感じた若い時代でした。九龍半島のTST (チムシャツイ、という言葉が最初はどうにも覚えられませんでしたが)の雰囲気、沢山の日本人観光客でにぎわったペニンシュラホテル (今では中国人にとって代わられましたが)、広東料理と大好きな沢山の銘柄のビール、枚挙にいとまがない思い出も、一番の喜びは、意外にも沢山の自然が残っており、山歩き、海遊び、満喫できたことです。7年間の間に全ての山と島を回りました。しかも狭いところなので、交通のアクセスも最高でした。



2006年の移転直前のスターフェリーセントラル埠頭 (写真：小柳淳)

2009年から2016年の7年間居住で永住権ももらえたのですが、その単身赴任のもう一つの楽しみは映画でした。学生時代、否、小学校時代から東映時代劇やアメリカ映画にか



植民地時代と現在の香港ドルコイン (写真：小柳淳)

ぶれ、東京での学生生活4年間は映画評論家になろうかと自分でも思ったくらい (学費を出してくれた両親にはすみませんが) でしたので、独り身の気楽さ、また、映画館によってはシニア割引で、香港ドル20~30で、封切り映画が楽しめました。実は英語の勉強でもありました。1970年代からの香港映画全盛時代も日本でも沢山の映画を観て、香港好きに拍車をかけたことが思い出されます。

商社から転職して、流通業、アパレル小売り販売、静岡県沼津市の新天地での初めての繊維以外の仕事、すべてに香港が関係していたことも「第三の故郷」の気持ちを強固に後押ししてくれたものと感謝です。第二の故郷ニューヨークでの7年間の商社駐在生活は人生の宝物でもありましたが、不摂生と接待の多さで食べ過ぎ飲み過ぎで100キロまで体重が増えたことを反省して、その後は香港生活時代85キロあった体重も、美味しい料理を時に我慢しながらも、香港マラソンやユニセフマラソンに挑戦、そして山歩きなどで減量して、現在は学生時代の70キロになっています。これもまた香港生活7年間のおかげです。香港の街は私を魅了して止まないところで、いまでは行くことも無いですが、また機会があれば、福岡の後輩と一緒に大好物の麻婆豆腐を食べにレストラン満江紅に行きたいです。

香港は私の人生のなかで、かけがえのないものです。1997年中国返還からもう20年、今後どうなっていくのだろうか、今は次の挑戦を間近に控えた故郷久留米から望郷の思い断ちがたく、思い出の硬貨を眺めては、ほぼ40年間、毎年香港に行けたこと、住めたこと、永住権をもらえたこと、沢山の皆さんにお世話になったこと、素晴らしい自然と美味しい料理、ただただ感謝だけです。多謝！私の香港！

田中稔／1953年福岡県久留米市生まれ。1976年三菱商事大阪支社から1988年ニューヨーク駐在、1999年ジャスコに転職、そののちトミーヒルフィガー、東洋ファイバー（沼津市）などを経て、2009年南洋針織集団日本向け責任者として香港に着任。2016年故郷久留米に戻り、現在に至る。

## 高知から香港へ～グローバルビジネスにおける海外初出店～

株式会社グラディア 森本 麻紀

2015年3月。よもや香港へ行くなど、数か月前どころか数週間前にですら1ミリも思わなかった、とあるミーティング。海外といえばハワイにしか全く興味のない私に予期せぬお誘いがかかりました。今や全国18ヶ所、そしてアジア諸国にまで影響が及ぼうとしている「にっぽんの宝物コラボグランプリ」の創設者でもある、株式会社アクティブラーニングの社長、羽根拓也氏からの強烈なお誘い。渋る私に世界を見てほしい、そしてその世界水準を高知へ持って帰ってほしいと、本気で誘ってくださる姿に心が動き、僅か2週間後に迫った、私にとっては初めての香港ツアーへの参加をその場で決断しました。

当時、すでに羽根社長とは6年ほどの付き合いがありましたが、まさか自分が香港に出店する等その時は知る由もなく。ただ元来好奇心旺盛の性格も後押しして、よし！どうせ行くならガッツリ何か吸収してやろう（あと美味しいもんをいっぱい食べてやろう）と意気込んでいたのは、現地でのいろんな写真を観れば恥ずかしいぐらいに伝わってきます。

今では聞きなれた6次産業化ではありますが、この「にっぽんの宝物コラボグランプリ」はまさにそれを具現化しているんです。高知県内の農林水産業者と加工・販売業者が協力して開発した商品を競い合わず中で、そのコラボ商品を何度も磨き上げる。そして幅広いジャンルの方々からの意見を取り入れさらに磨き上げる。その商品をグランプリという手法を用いて順位をつけ、タイトルを手にした商品が、高知という枠を超え、さらには日本の枠を超えて海外で大人気商品として売れまくっている。私の初めての香港はそれを目の当たりにしたツアーでした。

高知の主要メンバー約20名と共に訪ねた香港では、羽根社長のセッティングのもと香港和僑会の皆様とのワークショップが開催されました。そこで私に運命の転機が訪れるのです。

実は私は香港に行くまでは、アジアでのビジネスに対して全く興味がありませんでした。私は以前にも期間限定でハワイでの出店経験があり、行く行くはハワイでビジネスをする為に動いていたのです。正直申し上げますと、冒頭にも少し触れておりますが、香港に行く事を決めた一番の理由は、世界一美味しい北京ダックを食べさせてあげます！と言った羽根社長の甘



5019 高知店一階テラス

い誘惑でした♡ 食べる事と海外旅行が大好きな私にとって断わる理由は見当たりません。

せっかく行くなら仕事にも繋げないといけないので、ワークショップにも積極的に参加しました。そこで私の仕事人としてのターニングポイントとなる、香港在住の某食品関係の商社マンであった辻本氏との出会いがあったのです。辻本氏は飲食店の独立を考えており、どのジャンルの飲食店にするかを模索中でした。無類のハンバーガー好きということもあり、すぐに意気投合。その日は様々な可能性に大いに盛り上がりました。翌日の研修を終え、「またお会いしましょう」と爽やかに私たちを見送って頂きましたが、正直、ビジネスマンがよく使う挨拶だな、ぐらいの気持ちだった私の想像は、この2ヶ月後にひっくり返ります。ただの挨拶かと思いきや、2ヶ月後本当に高知までハンバーガーを食べに来てくれたのです。

そこからは、お互いにパートナー契約をし、香港での5019 PREMIUM FACTORY 海外初出店に向け奔走しました。現地の飲食店で、使っていない時間帯に厨房を貸していただき現地食材での試作の繰り返し。テストマーケティングの為にイベント出店等、やることは山積みで、営業許可申請の大変さなど、日本とは全く違うルールに困惑しながらも、構想から2年後の今年4月に香港島セントラルSOHOに5019 PREMIUM FACTORY 香港店がオープン致しました。

今は2ヶ月に一度程、香港店に行きますが、ほぼ毎日電話やメールなどで、情報共有やメニュー開発等行っております。まだまだ未熟な店舗ではありますが、夢はどんどん膨らんでいます。グローバルビジネスのお手本となれるよう今後も様々な可能性を信じ、高知のために日本のために、関わって頂いている多くの仲間と共に頑張っていきたいと思っております。



5019にて



5019 香港店

# NATIONAL

日本香港協会 全国連合会 事務局

## 「第18回香港フォーラム」 & 「全国協会交流会」 開催報告



フェアウェル・ディナーにて9年連続でベスト・アテンダンス・アワードの表彰を受ける日本香港協会



香港貿易発展局マーガレット・フォン総裁を囲む各地日本香港協会代表者の皆様

◆第18回香港フォーラムにて、日本香港協会が9年連続“ベスト・アテンダンス・アワード”を受賞！  
去る12月5日・6日、香港ビジネス協会世界連盟（Federation of Hong Kong Business Association Worldwide／本部＝香港貿易発展局内）の世界大会「香港フォーラム」が開催されました。第18回目の開催となった本年は、全世界から360名以上の会員が参加し、大盛況のうちに幕を閉じました。

今年のフォーラムも、日本全国の参加者が世界全体の総参加者数の約4分の1を占める、総勢91名を数え、国別での参加者数が世界一となり、9年連続で“ベスト・アテンダンス・アワード”を受賞しました。

また、各協会の活動に対する受賞式では、世界各地からの多数の応募の中から、高知日本香港協会が年間を通して会員数が最も増加した協会に贈られる「アウトスタンディング・メンバーシップ・アワード」のアジア・オーストラリア地区におけるグランドプライズ（最優秀賞）、ならびに昨年と比較して会員数が10%以上増加した協会に贈られる「パーセンテージ・インクリーズ・アワード」の2賞を同時に受賞されました。2016年6月に11協会目に設立された高知協会は日本の全協会の皆様、世界の皆様の拍手の中受賞されました。

12月5日・6日の2日間の会期中にはビジネスセミナー、パネルディスカッション、ワークショップ、視察ツアー等数多くのイベントが催されました。1日目の講演会では、「イノベーションとクリエイション」と題して、香港の若い企業家の成功の秘訣とそのやる気について、「中国から世界に向けての窓」と題して、香港を通じて世界に進出された中国本土の企業家達のサクセスストーリーについてのセミナーが行われました。その後には昼食懇談会、インサイダーストーリー、地域別分科会が行われ、初日のプログラムが終了しました。常に新しいチャンスやアイデアを得ることが可能な香港ならではのプレゼンテーションが展開されました。今年の

フォーラムのハイライトとして、2日目の昼食講演会では、香港特別行政区政府行政長官キャリー・ラム氏を迎えての基調講演があり、2017年に20周年を迎えた香港特別行政区政府について、これからの発展や新しい政権構想についてお話いただきました。

また、2日目午前のプログラム「アジア電子商取引サミット」は12月6日開催の香港貿易発展局主催の1日プログラム「アジア電子商取引サミット」の一部に参加するという、初の試みが行われました。このサミット自体が今年初開催のサミットで、eテリングの戦略と技術に関する最新のトレンドと実践方法、新世代のeテリングについて、越境eコマース、社会コマース、サイバーセキュリティ、さらにはオムニ・チャンネル戦略の機会と挑戦について等、急速に拡大するeコマースビジネスについて、世界で活躍するビジネスリーダーの方たちの講演を聞くことができました。また2日目最終プログラムとなるオプション視察ツアーでは、地域クーリングシステムを見学できる旧啓徳空港跡に建設された施設「啓徳開発計画」、廃棄エネルギー変換施設の「T-Park」、仏教建築物である「東蓮覺苑」の3プログラムの中から、普段あまり訪れない場所へ、おのおの自由に選択した視



「アウトスタンディング・メンバーシップ・アワード」を受賞する高知日本香港協会の皆様



日本香港協会全国の11協会がすべて香港に集まりました

察ツアーをガイド付きで楽しみました。

最終日のフェアウェル・ディナーでは世界中のメンバーが名刺交換をする国際的な交流が見られ、メンバー一同楽しいひと時を過ごしました。

#### ◆日本香港協会全国の11協会がすべて香港に集まりました

香港フォーラムの前日、12月4日には、「ビクトリア・ハーバー・スプリーム」において第9回全国協会交流会が開催されました。また、交流会に先立ち日本香港協会全国連合会総会が開催され、第6回総会として今年一年の活動を振り返るとともに、来年の新たな事業計画が討議されました。

全国交流会では本年度の幹事協会である高知日本香港協会の進行のもと、事務局長の舟越康浩氏の司会により、全国連合会戒田真幸会長の開会挨拶、在香港日本総領事館松田邦紀大使兼総領事の来賓挨拶、香港貿易発展局BRE部アイリス・ウォン部長の乾杯の挨拶で

幕を開けました。また、香港政府観光局のご好意によりライオンダンスのパフォーマンスが披露されました。

終始なごやかな雰囲気で行われた交流会は香港貿易発展局日本代表兼日本香港協会全国連合会事務局長サイラス・チュー氏の閉会の挨拶と香港貿易発展局大阪事務所長伊東正裕氏の翌日から開催される香港フォーラムについての説明で幕を閉じました。

全国交流会は、各地の協会の会員の皆様が一堂に会し、年に一度香港で交流ができる機会ということもあり、今年も90名以上の方に参加頂き大盛況の会となりました。また、今年2017年2月に再設立された山形日本香港協会を含めると日本全国11協会すべての協会から、香港フォーラム参加に先立ち、全国連合会総会、交流会へ出席いただきました。

今年ご参加いただけなかった方におかれましても、来年度は是非ご出席いただき、メンバーとの交流、ネットワーキングを深めていただければと思います。



日本香港協会各地協会会長、代表者、来賓の皆様

## 華麗なるショーとパーティーの夜、「Fashion Hong Kong」を東京で開催

香港貿易発展局東京事務所 コーポレート・コミュニケーション&マーケティング・マネージャー 米岡 哲志

香港貿易発展局は10月17日夜、香港のファッションデザイナーの海外進出を支援する「Fashion Hong Kong」の合同ショーを、東京ファッション・ウィークの一環として、渋谷ヒカリエ9階ホールAで開催しました。香港から来日したポリー・ホー（何善恒）氏のブランド「LOOM LOOP（ルーム ループ）」は3年連続のショー参加。メイキン・ン（呉嘉楹）氏の「MEIKING NG（メイキン ン）」、ハリソン・ウォン（黄梓維）氏の「HARRISON WONG（ハリソン ウォン）」、イー・チャン（張煒豪）氏とラリー・チャン（陳怡）氏による「HEAVEN PLEASE+（ヘブン プリーズ）」の3ブランドは、今回が初参加となりました。各ブランドは「2018年春夏コレクション」を各14ルック（計56ルック）、今回のショー向けに制作。これらのショーピースを身にまとった総勢40人のモデルが華やかにランウェイを行いました。会場には立ち見を含む900人超の観客が押し寄せ、香港のファッションの最前線を堪能する夜となりました。

ショーに続いては、香港特別行政区政府の設立20周年を記念するイベントとして、ホールAに隣接するホワイエにて、香港貿易発展局と香港経済貿易代表部の共催によるアフターショーパーティーが催されました。開幕のあいさつに立った香港貿易発展局のサイラス・チュー（朱耀昌）日本首席代表は、「香港は高品質のガジェットとテキスタイルの製造拠点として世界中に知られていますが、今では創造性豊かな製品やデザインによって、アジアにおけるライフスタイルのトレンドセッターとなっています」と述べ、香港をアジアにおけるファッションのトレンド発信基地として活用するよう訴えました。続いて登壇した香港経済貿易代表部のシェリー・ヨン（翁佩雯）首席代表は、「カルチャー、クリエイティビティー、アート、デザインといった要素は香港の競争力に不可欠なものです。ファッションデザイナーが服飾を通じて自分を表現するアーティストであるのと同様に、香港はこうしたファッションデザイナーの活躍を通じて香港の人々の芸術的側面を発信しています」と強調



フィナーレのランを行うモデルたち

しました。その後、主催者およびデザイナーらがステージ前に集まり、東京ファッション・ウィークの公式スポンサーである旭酒造の「瀬祭」などを片手に乾杯と記念撮影を行いました。

パーティーではまた、ショーを終えた4ブランドのルックをディスプレイするセッションも設けられました。200人を超す参加者の多くがスマートフォンで写真を撮影し、インスタグラムやツイッターなどに投稿する様子がみられました。

今回のFashion Hong Kong事業では、17日夜のファッションショーのほか、10月2日～31日に港区南青山のショールーム「H30ファッションビューロー」にてバイヤー向けの展示会を開催しました。また、10月14日～31日に新宿区新宿の「ルミネエスト デスティネーション トーキョー」、10月24日～11月2日に渋谷区神宮前の「ラフォーレ原宿 コンテナ」に期間限定店を開設。ショーに参加した4ブランドの最新コレクションのほか、香港のファッションアクセサリブランドを展示販売しました。



主催者とデザイナーの記念撮影

### Fashion Hong Kong 開催実績 ファッション・ウィーク（FW）

第1回	2015年1月	コペンハーゲン FW 2015年秋/冬
第2回	2015年10月	東京 FW 2016年春/夏
第3回	2016年2月	コペンハーゲン FW 2016年秋/冬
第4回	2016年2月	ニューヨーク FW 2016年秋/冬
第5回	2016年10月	東京 FW 2017年春/夏
第6回	2017年1月	コペンハーゲン FW 2017年秋/冬
第7回	2017年2月	ニューヨーク FW 2017年秋/冬
第8回	2017年10月	東京 FW 2018年春/夏
第9回	2018年2月	ニューヨーク FW 2018年秋/冬（予定）
第10回	2018年2月	ロンドン FW 2018年秋/冬（予定）

公式サイト：[www.fashionhongkong.com](http://www.fashionhongkong.com)

#fashion\_hongkong

@hktdcfashionhk



## NPO法人日本香港協会 副理事長 佐藤 征洋

## 第47回ビジネス懇談会

NPO法人日本香港協会主催の第47回ビジネス懇談会は2017年10月27日、日本貿易振興機構（JETRO）香港事務所伊藤亮一所長を講師として学士会館において催されました。演題は“アジア諸国・中国ビジネスの現状と香港の位置づけ”で、香港貿易発展局の後援の下、各界から30名以上の参加がありました。講師・伊藤亮一所長は1986年にJETROに入られ、日本国内外で活躍され、1990年にはマニラ事務所に赴任されました。2013年から本部の進出企業支援課長として日本企業をサポート、2015年8月から現職・香港事務所長として企業の海外投資、貿易案件の為に尽力しておられます。

講演の内容は、現地の生の情報を元に具体性に富んで分かりやすいものであり、アジア、中国、日本を俯瞰して充実した講演会となり、参加者から大変意義深かったとの賛辞がありました。講演の具体内容の一部を紹介します。

## ◆1 アジアにおける日系企業の動向

JETROが受けた相談の具体内容をまとめてアジアと香港に焦点を合わせて説明された。例えば相談件数は2005年に地方から依頼されたテーマは四分之三が中国に関連したが、近年はアセアン関連のニーズが激増しており、中国関連は上海の消費市場絡みの進出とその他は撤退相談に留まった。今後1~2年で企業の事業拡大意欲はアセアンが中国よりも15ポイント（%）以上高い事が示された。中国に進出済みの企業からは内販拡大以外にも事業縮小、中国からの撤退につき相談が寄せられているが多くは輸出型企業が該当している。中国では国内販売を目指す企業の比率が高まっている一方、アセアンでは輸出志向型の企業の比率が高い事が示された。

ベトナム、フィリピン等アジア視察を二度行ったが、一旦中国に進出した中小企業のアセアン等への転出、撤退は簡単ではなく、殆ど実現できてない。大企業付随型の進出が一巡し中小企業独自で進出することの困難さ、アセアンにおけるすそ野産業の脆弱性が要因である。

中国では日系企業の製造コストは大幅に上昇したが、アセアンと比較し群を抜いた原材料・部品の調達体制が構築されており、品質管理問題も減少している。これらから在中国日系企業の立ち位置は、高付加価値と内販向け機能強化であることが端的に示されている。

## ◆2 香港（経済）の位置づけ

背景となる香港の政治情勢の一連の流れの説明があり、キーワードとして“一国二制度”が言及された。この制度は2014年の雨傘運動から本年3月の新行政長官の選挙に至り変質しつつあるとの見解がなされ、感覚的に中国のコントロールが強くなり既に一国1.5制度と言わ

れる事もある由。

新選出の女性行政長官であるキャリー・ラム氏の略歴が紹介され、同氏には中国の支持が高かったことが選挙勝利の一因であったと言われ今後は地場の一部反中



講演する伊藤所長

中央政府感情（特に若年層）に対し如何にバランスを取るかに手腕が試されている。

香港経済については、その優位性、即ち自由貿易、低税率、金融保険、法治とビジネスの透明性、物流機能の充実等が言及された。しかし金融保険機能については香港がFINTECH等でシンガポールに少し遅れた印象もあるとの見方が披露された。香港経済の活況は、主として中国からの資本流入に要因があり高額不動産投資、年間4,298万人に及ぶ中国人観光客の小売需要が存在し、小売りへの影響からも中国に左右される面が披露された。不動産業界では、香港島セントラル地域から多くの日系企業や欧米企業が高コストに耐え切れず九龍や香港島に転出、替わって転入する企業はすべて中国大陸系企業である事が紹介された。

## ◆3 日系企業の香港ビジネス

## (1)なぜ香港を目指すか

前述の自由市場で入り易い事、低税率、高所得による需要が見込める事、物流ハブ機能等の存在が特筆された。香港人の収入の具体数字が例示され、飲食店のスタッフの月給与が、日本の平均は1,152米ドル、香港は1,531米ドルであること、また所得別世帯収入は日本：427万円、香港：462万円である事に言及された。

香港は少子高齢化問題とは無縁で、理由は外部からの若年層の流入である。97年以降に流入した新香港人が150万人を占め、更に数千万人の旅行者を含めると、単に人口739万人だけでは語れない大きな活力源が特徴的である。また、広東、香港、マカオベイエリア計画の始動、広深高速鉄道のインフラ整備等のプロジェクトが進んでいる。ただ、これらは中国イニシアティブである。

## (2)輸出市場としての香港

食品・農水産品の輸出先の中で香港は世界一の市場である。外食回数を見ると日本人が毎週1.2回のところ、香港人は6.9回に及ぶ。日本食レストランは既に1,280社に及んでいる事や新しい日系企業のビジネス展開もある。自由港であり無税で、農水産食品を自由に輸入、販売が可能。通関も容易であることが特徴である。しかし家賃の高騰や香港人気質から経営は厳しく撤退も多い。

日本では西日本、九州から関西にかけて香港との経済

(17ページへ続く)



## 関西日本香港協会 理事 高藤 治

### アジアフォーラムに参加して

5月19日、20日にフィリピンのマニラで開かれた香港ビジネス協会世界連盟主催のアジアフォーラムに日本を代表して参加した。同連盟はオーストラリア、ヨーロッパ、北米、アジアの4地域ごとに年に1回、地域フォーラムを開催している。アジアフォーラムは今回が14回目だった。2013年には日本でも沖縄で開かれたことがあるが、従来から東南アジアの国がホスト国になることが多い。私は2009年にベトナムのホーチミンで開催されたフォーラムに参加したことがあり、今回は戒田会長の代理として8年ぶりの参加となった。

会場となったのはマニラ湾に面したカジノを併設した高級ホテル、「ソレアリゾート」だった。19日は正式な会議が開かれる前に、ランチミーティングがあり、ここでお互いの紹介をした。各国の協会メンバーとの交流が大きな目的であるアジアフォーラムだけに、正式なスケジュール前から寛いだ雰囲気の話ができた。会議は英語で進められるだけに、プレッシャーが大きかったが、食事をしながらそれぞれの人柄を知ることができ、本番前にリラックスできた。

会議はホスト国であるフィリピンの香港商工会議所会頭のアントニー・チャン氏が挨拶し、香港貿易発展局の東南アジア・インド地域を統括するピーター・ウォン氏が中国経済の現状などについて講演した。フォーラムにはシンガポール、ベトナム、タイ、インドネシア、カンボジア、マレーシア、日本、フィリピンの8か国の代表が出席し、ディスカッションを行った。テーマは各協会での活動や、特に若いメンバーを増やすために行っている活動についてだった。若手の勧誘は将来的に協会を発展させていくために必要であるとの認識からだ。私は、日本では連合会の下に地域ごとに協会があることを説明し、ビジネス講演会や各種イベントを開催していることを紹介。特に地方の協会では最近の動きとして農産物の輸出や外国人観光客の誘致に力を入れていることか

ら、民間企業、地方自治体が香港との関係強化を図っていることなどを説明した。その結果として、ここ数年、香港ビジネスフォーラムには日本から100人以上の参加者があることも強調した。

他のメンバーのプレゼンテーションは効果的に映像や音楽を活用したものが多かった。小学校に図書館を寄贈する慈善活動を行ったり、大学生をメンバー企業にインターンシップで受け入れたりした活動報告が行われた。どのメンバーも楽しそうに情熱を込めて自分たちの活動を語っていたのが印象的だった。

会議の後は夕食会が開かれ、地元フィリピンだけでなく、各国からの代表以外のメンバーも加え50人以上が一堂に会した。フィリピンの投資委員会の副委員長や中国大使館の商務担当領事がゲストスピーカーとして演壇に立った。アキノ前大統領時代は、南シナ海を巡って中国と対立していたフィリピンだが、2016年6月にドゥテルテ大統領が就任してから、関係が大幅に改善したことを象徴するゲストスピーカーで、中国企業向けの工業団地の構想など、中比関係の現在を確認できた。

香港ビジネスフォーラムは友好だけでなく、ビジネスチャンスを求めるメンバーが多い。私にも「日本企業とインドネシアで農産物の加工事業をしたいが、紹介してくれないか」と声がかかるほどだった。アジア地域でのビジネスを考えている日本のメンバーは多いだろう。香港ビジネスフォーラム、アジアフォーラムのネットワークを上手に活用できないかと改めて感じた。

20日は自由参加でマニラ湾の入り口にある要衝の地、コレヒドール島へのツアーが組まれた。各国のメンバーと交流を図る目的で参加した。コレヒドール島は第2次世界大戦中の激戦地で、日本軍がマッカーサー率いる米軍と戦った。マッカーサーは密かに脱出してオーストラリアに向かい、「I shall return」と述べて、再びフィリピンに戻ってきたことで知られている。日本軍兵士が玉砕したトンネルなどを巡り、複雑な気持ちになった。それは別として、プライベートに各国メンバーと一緒に時間を過ごし、会話したことは貴重な体験だった。そして香港フォーラムで再会することを誓った。

参加したメンバーの中には銀行家、製造業の社長ら多くのビジネスマンがいた。このネットワークを活用しない手はない。チャンスがあれば、積極的にアジアフォーラムへ参加することをお勧めしたい。



各国代表との交流を深めた  
コレヒドール島ツアー



活発な意見交換が行われたアジアフォーラム



## 中京日本香港協会 事務局長 佐藤 亮一

ワールド・コラボ・フェスタおよび  
日中友好行事報告

恒例となった秋季行事第9回愛知県主催「ワールド・コラボ・フェスタ」が10月14日(土)~15日(日)2日間に亘り名古屋中心街栄テレビ塔下「もちのき広場」を会場として開催された。中京日本香港協会名にて例年出展しており初日秋雨に祟られたが71,000人を超す参加者に、香港観光・文化のPR(資料は本部貿易発展局、香港政府観光局よりの提供受け感謝)パンフレット、チラシ、キャセイ航空パンフレット等々配布した。中部~香港の文化交流の一端になれば、又、個人会員の増員を目標に今後も県国際交流協会による異文化交流にも積極的に参加してゆきたい。

名古屋市の外国人居住者は市にヒアリングした数値は73,000人で、その内訳は中国22,000人、韓国18,000人、フィリピン8,500人。以上3国で全体の67%を占める。香港は5,800人と8%程度で、フェスタ開催中2日間ブースでの香港人との出会いは2名に留まった。一方、東南アジアエリアでの知名度として香港は高く、台湾、シンガポール、タイと続き、殆どが観光目的での渡航が多い中で、ビジネス体験者からの興味は現状の香港と中国との関係・将来性についても勉強されている方々が年配層、学生に多く散見された。又、配布宣伝物の中、部数的には2日間で全部の提供を完了したが、一番関心あるチラシは(1)香港MAP(2)香港ガイド(3)ウォーキング案内が陳列した中での人気。ちなみに、来客者に示したクイズの「今年は返還後何年?」では、回答選択肢は10年、15年、20年の中で90%の正解率が得られ、「香港」2文字の関心度が高いことが伺われる。以上中部地区~香港・中国との情報交換は、種々の分野で発信してゆくべきイベントでもあった。

次に、中華人民共和国建国記念日祝賀会が市内ホテルにて9月下旬に開催された。東海・北陸など6県の政財界500人が交流、中華人民共和国駐名古屋総領事鄧偉氏、愛知県知事大村秀章氏等々来賓が出席され、知事も挨拶の

際、県内企業1,200社が中国に進出、県内45,000人の中国人在住者など両国の関係強化の必要性に触れられた。それに伴い日中両国の交流としてイベント「日中友好錦秋



中京日本香港協会ブース

の集い」が地元紙後援の下、9月~10月にかけて中部国際空港内でも催され、一例としては名古屋在住中国人書家による日中書画篆刻協会の書道展も日中友好の一環としてPRされた。またイベントの期間中は雑技団や中国舞踊、チャイナドレスや日本着物の着付け体験、切り絵展など珍しい実演も含め民間レベルの外交も華やかに中部地区で開催となった。10月1日(日)の国慶節を前に、この建国68周年と日中国交正常化45周年を祝う会での締めめの中国側のコメントに「中・日関係改善強化が地方・民間レベルの友好交流にとって重要」とあったのは印象深い。

## 日本香港協会全国連合会

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4 トラストイ麹町ビル6階  
香港貿易発展局 東京事務所内  
電話 (03) 5210-5901 FAX (03) 5210-5860

NPO法人日本香港協会(東京) 電話 (03) 5210-5870

〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラストイ麹町ビル6階  
香港貿易発展局内

関西日本香港協会 電話 (06) 4705-7030

〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階  
香港貿易発展局内

中京日本香港協会 電話 (050) 3620-2517

〒460-0003 名古屋市中区錦2-11-27 TH錦ビル8階 株式会社喜齋内

九州日本香港協会 電話 (092) 451-8610

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2丁目9-28 会議所ビル1階  
地域企業連合会 九州連携機構内

山形日本香港協会 電話 (023) 665-1310

〒990-2301 山形市蔵王温泉丈二田752-2  
ユニテ蔵王ジョーニダ・リゾート内

北海道日本香港協会 電話 (011) 261-4288

〒060-8661 札幌市中央区大通西3-7 北洋銀行国際部内

宮城日本香港協会 電話 (022) 212-5550

〒980-8520 仙台市青葉区一番町3-7-23 明治安田生命仙台一番町ビル3階  
(株)JT東北本社 営業部内

沖縄日本香港協会 電話 (098) 8686-3758

〒900-0033 那覇市久米2-2-10 那覇商工会議所内

広島日本香港協会 電話 (082) 248-1400

〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3階  
(公財)ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内

新潟日本香港協会 電話 (025) 365-0001

〒951-8052 新潟市中央区下大川前通4ノ町2186番地 愛宕商事株式会社内

高知日本香港協会 電話 (088) 856-9112

〒780-0822 高知市はりまや町1-7-7 川村ビル4階  
株式会社ティーエルホールディングス内

URL <http://www.jhks.gr.jp>



ワールド・コラボ・フェスタ会場



## 福岡県香港事務所 所長 藤木 重尚

### イノベーション都市・深圳の可能性

#### 1. 深圳のいま

香港から列車で約40分の広東省深圳市は、戸籍人口1,130万人、域内総生産2,940億米ドル（約31.8兆円\*1）、経済成長率9%の大都市\*2である。1970年代には人口3万人の漁村に過ぎなかった深圳は、1980年に改革開放の象徴として経済特区に指定されて以来、安価な人件費等を求めて日本などの製造業が生産拠点を置くこととなり、先進国の技術を蓄積してきた。近年では、BYD（電池・電気自動車）、DJI（ドローン）、ファーウェイ（IT機器）といった製造業に加えて、テンセント（インターネットサービス）等の中国経済をけん引するグローバル企業が拠点を構えている。

一方で近年の深圳は、人件費の高騰、内陸部の発展に伴う出稼ぎ労働者の不足、リーマンショック後の外資の撤退等により、技術・人材重視の産業政策へ転換を図ってきた。その結果、今では“中国のシリコンバレー”と呼ばれ、新興ハイテク企業が次々と生まれるイノベーション都市へと変貌を遂げている。

#### 2. イノベーション都市・深圳の発展を支える背景

英エコノミスト誌は、深圳をかつての「模倣品製造の中国」の一部ではなく、「イノベーションのグローバル・ハブ」とまで呼んでいる。このように深圳の発展を支えてきた背景には、下記のような要因がある。

##### (1)研究機関の集積

多数の高等研究機関が集中する北京や上海と異なり、都市としての歴史が浅い深圳には、国際的に著名な大学や研究機関が少なかった。そのため深圳では、北京大学、清華大学、上海交通大学、華中科技大学、南京大学などの他地域の名門大学の分校、研究機関を積極的に誘致し、集積を図ってきた。

##### (2)人材の集積

さらに深圳は、海外からの人材を積極的に受け入れるだけでなく、欧米、日本など海外で技術を学んだ人材を呼び戻して起業させる政策を積極的に展開している。中国では、海外で学位を取得して帰国した人を“海亀”と呼ぶそうであるが、深圳市政府によれば深圳では2000年に1,000人程度であった“海亀”は、2017年には7万人に達しているとのことである。

##### (3)文化を創り出す人々の自負

長い歴史を有する広州や北京、上海と比べ、深圳には歴史・文化といえるものが少ない。これが却って深圳のイノベーションを支える原動力になっている。広州等の都市にとって、文化は継承・発信するものであるが、深圳にとって、文化は創り出すものと理解されている。深圳で活動する人の平均年齢は非常に若く、訪れた日本人

は街中や工場、オフィスにいる人のほとんどが20～30代の若い世代であることに驚くはずである。このような世代は、しがらみや既得権による制約を受けることなく、新たな事業を創造し、トレンドを生み出している。

##### (4)都市機能

製造業の集積により形成されたサプライチェーン（部品の調達、組立・生産、検品、発送の一連の流れ）は、製品によっては日本から午前中に受けた注文を最速翌日午後には納品できるほど発達しており、このようなスピード感で動くビジネス環境が、次々に新製品・新サービスを生み出す土壌となっている。また多くのベンチャーを支援する中国IT大手や米国ベンチャーキャピタルなどの投資家による資金に加え、世界の若者が集まり、日々人脈形成や製品・サービスの開発を行う創業支援施設など、イノベーションを生み出す機能が充実している。

#### 3. イノベーション都市・深圳の可能性

米国シリコンバレーのように、世界中のヒト・モノ・カネが集まる深圳は、今後も貪欲に海外の知識やアイデアを吸収し、独自のサービスを展開する新興企業を輩出し続けると思われる。しかし、ハードウェアで世界をリードする深圳であるが、コンテンツやデザイン、製品やサービスの使い勝手などは日本を含む海外企業に一日の長がある。深圳市政府もその点は理解しており、例えばフィンランドのヘルシンキ市との友好提携に基づくデザインパークの共同設置のほか、ドイツとの連携によるエンジニア育成のための深圳技術大学の開校や、香港貿易発展局との連携による創業支援施設の共同設置などを行っている。

深圳市政府からは、理工系分野を中心に日本の大学生との交流を広げていきたいとの希望が当事務所に寄せられている。デザインのほか、ゲームや映像等のコンテンツやソフトウェアなど、本県に優位性がある分野を中心に、深圳との連携や経済交流を進めていくべきと考えられる。

当事務所では、深圳市政府だけでなく、現地の創業支援施設や、深圳で活躍する方々とのネットワークを活かして、引き続き、情報提供や県内企業支援を行っていくので、まずは一度深圳を訪れ、都市の勢いと人々の情熱を感じていただきたい。

注）\*1：為替レート1米ドル＝108円 \*2：深圳市政府パンフレットによる

深圳側から見た香港と中国の境界 羅湖口岸





## 山形日本香港協会 事務局

## 7月香港訪問団同行報告

去る7月、山形県議会議員団及び山形日本香港協会の会員、香港と繋がりのある山形県の企業関係者を中心とした香港ミッション訪問団が結成され、同月19日～21日にかけて、ジェットロ香港をはじめとした香港の関係各所への訪問が実施されました。今年2月の山形日本香港協会の再設立による山形香港間の結びつきを更に強めようという機運の高まりと大沼みずほ山形日本香港協会会長の強力なリーダーシップの発揮により、今回の香港訪問団が実現することとなりました。

最初に訪れたのは、ジェットロ香港と栃木県香港事務所です。ジェットロ香港の伊藤亮一所長からは、香港から山形県へのインバウンドや県産品の輸出を取り巻く現在の状況及び東日本大震災の影響について、貴重なお話をお聞きました。伊藤所長は過去にジェットロ山形の所長を歴任されていたこともあり、山形への愛着がとて強く、山形と香港の関係がより緊密になるためにできる限り協力したい、という大変ありがたいお言葉をいただきました。

また、日本と香港とのビジネスでは「西高東低」という現状の中、東日本に位置する都道府県では成功を収めている数少ない例である栃木県の毛塚隆弘香港事務所所長より、香港における栃木県のこれまでの歩みとこれからの展望について説明がなされました。とりわけ県議会議員団の方々は大きな関心をもって話を聞かれ、かつ有意義な質疑応答がいくつもなされました。香港との結びつきを深めていくには、企業や個人のみならず、県のバックアップが不可欠となりますので、県議会議員の皆様の後押しにより、両者の関係強化に向け、県もより力を注いでいくものと確信します。

次に、農作業機械等を取り扱う株式会社クボタが香港に設置した現地法人で、米の輸入販売及び精米を営む久保田米業有限公司を訪問し、香港市場での日本産米の動向について話をお聞きました。香港では、アメリカや北海道や新潟のお米が主流であり、山形県産米の消費は

一部の高級日本料理店に限定されているようです。日本有数のお米の産地を自認する山形県としては、県産米が香港の皆さんにより親しま

れるようになることを期待しております。続いて、日系スーパーであるイオンスタイルを訪問しました。日系のスーパーということもあり、店内には日本産の食品が多数陳列されていましたが、山形県産品の取り扱い是非常に限られており、行政や各事業団体の垣根を超えた継続的かつ戦略的な取り組みの必要性を感じました。

夕方からは、在香港日本国総領事館において、当協会大沼会長及び吉村美恵子山形県知事、松田邦紀大使、香港の企業関係者らも加わっての意見交換会が行われました。大沼会長は、以前に在香港総領事館で数年間勤務していたこともあり、今回の意見交換会の開催に尽力されました。意見交換会では、大沼会長からは山形と香港の関係強化に向けてより一層協会として力を入れていく旨、吉村県知事からは県として最大限バックアップしていく旨の発言がなされました。山形と香港との交流を活性化するためには、山形香港間の航空直行便開通の実現が最も期待するところではありますが、まずは仙台香港間の直行便の再開が必要だということで皆の意見が一致しました。

意見交換会後には、レストラン「潮江春」に場所を移して、香港山形県人会との懇談会が山形県庁の主催で開催されました。その場では、コンパスコミュニケーションズの木邨千鶴氏、パッケージツアーズの袁振寧氏、長空出版の郭昊展氏、Umai Magazineのジェフリー・ラウ氏の4名の方々が新たに『やまがた特命観光・つや姫大使』に任命されました。山形県産の日本酒で乾杯。吉村県知事より、さらに山形と香港の結びつきを強めるべく県としても全力を挙げて取り組む旨の発言がありました。山形県と香港の結びつきの強さと今後への期待が強く持てる内容となりました。翌日には、吉村県知事が、海外では昨年の台湾に続き、山形県として2回目となる東北6県と新潟県の知事による合同でのトップセールスを実施し、香港の皆様へ山形県の豊かな観光資源や美味しい食べ物のPRを行いました。

今回の訪問では、山形と香港のお互いへの強い思いを実感することができ、これからの両者の関係発展を強く期待できるものとなりました。

末筆ではございますが、この場をお借りしまして、訪問団を快く迎えてくださった香港の皆様、各企業、各団体の方々にはあらためて御礼を申し上げます。



ミッションツアーでの意見交換会



ポール・チャン財務長官との意見交換会



## 北海道日本香港協会

### 香港貿易発展局幹部の北海道訪問

今年は8月1日(火)にサイラス・チュー日本首席代表、10月4日(水)にマーガレット・フォン総裁が、相次いで北海道を訪問されました。

サイラス日本首席代表は、スーザン・ラム前代表の後任として、今年5月に就任され、初めての北海道公式訪問でした。8月の訪問では、北海道日本香港協会事務局のある北洋銀行本店において、横内龍三会長と面談されました。面談は終始和やかに進み、親交を深めることができました。サイラス日本代表からは、次回は雪が降るシーズンにまた札幌を訪れたいとの話がありました。当協会からは、来年2月の雪まつりの時期に合わせて開催を予定している春節パーティーには、毎年日本代表にお越しいただいており、サイラス日本代表の参加を大歓迎する旨、ご案内しました。

歴代の日本首席代表の方々には、協会運営にご協力をいただき、大変感謝しています。古田元代表、スーザン・ラム前代表には、毎年冬の厳しい時期にもかかわらず、協会の春節関係行事に欠かさずご出席いただきました。サイラス代表とも、今後色々な面でお世話になりますので、引き続きご指導をいただきたいと思っております。

今回の北海道訪問では、当協会への表敬のほか、北海道庁、札幌市役所、北海道経済産業局、札幌商工会議所、中国駐札幌総領事館などに訪問されました。

次いで、10月には、香港貿易発展局のマーガレット・フォン総裁が北海道を訪問されました。総裁の北海道訪問は、ジャック・ソー前総裁が平成26年(2014年)10月にお越しいただいて以来となります。今回の訪問は、10月5~7日に洞爺湖で開催された「アジア貿易振興機関フォーラム(ATPF)」への参加が主目的でした。ATPFは、日本のジェトロが提唱し、1987年に発足。アジアを中心に24の国と地域の貿易振興機関がメンバーとして参加しています。今年で30回目となるCEO会議が、初めて北海道洞爺湖で開催されることになり、総裁は10月4日に東京から札幌にお入りになりました。同日夜、北海道日本香港協会と総裁の夕食会が行われま



2017年8月1日 北海道日本香港協会横内会長との面談。左奥サイラス代表、右奥横内会長

した。北海道日本香港協会からは、横内会長、安斎副会長、堀副会長が参加。堀副会長が社長を務める日本清酒株式会社が経営する蔵元直営吉翔を会場に懇親を深めました。



2017年10月4日 北海道日本香港協会とマーガレット総裁の懇親会の様子。於：蔵元直営吉翔

日本清酒さまは、明治5年(1872年)創業の日本酒メーカーで、札幌で唯一の地酒を製造している蔵元です。中でも「千歳鶴」は、北海道ブランドの銘酒として全国にその名を知られています。海外への輸出にも取組みされており、香港でも日本清酒さまの日本酒が既に販売されています。又、同社では、札幌の酒と文化を発信するため、平成14年(2002年)に千歳鶴酒ミュージアムを建設しました。日本酒の仕込み水の試飲や同社製品の飲み比べができるほか、製品の購入も可能です。札幌市内中心部からも近く、マーガレット総裁もお忙しい日程の中、夕食会の翌朝、千歳鶴酒ミュージアムを見学されました。

札幌というと、ビールが有名で日本酒のイメージはあまりないかも知れませんが、良い水に恵まれた大都会札幌は、日本酒作りに適した土地なのです。豊平川は、大都会札幌の街中を流れているにもかかわらず、天然の鮭が遡上することで知られています。同社の仕込みに使う水は豊平川の伏流水で硬すぎず軟らかすぎずバランスの良いことから、100年以上創業の地で酒造りを続けてきたのです。

又、製造以外に、同社の日本酒を飲める場所として、今回の夕食会の会場となった蔵元直営吉翔など計3店舗を札幌市内に展開しています。北海道の美味しい食べ物と日本酒を堪能できるお店として人気です。筆者の個人的な好みでいえば、「しばれ酒」といわれる凍らせたお酒がお勧めです。ペースが早いと一気に回るのですが、良い日本酒は後に残らないので、翌日のダメージがほとんどないのがメリットです。

札幌は、10月には初雪が降りました。市内では、11月下旬からは「ホワイト・イルミネーション」や「ミュンヘン・クリスマス市」が開催され、クリスマス一色になりました。2月には「さっぽろ雪まつり」があり、冬も楽しい季節です。香港をはじめ、多くの観光客の方々のご来訪を歓迎します。

### 【北海道日本香港協会の活動スケジュール】

2017年12月5~6日 2017香港フォーラムへの参加

2018年2月5日(予定) 総会、香港ビジネスセミナー、香港のつどい(春節パーティー)



## 宮城日本香港協会 事務局



わーきれい！

## 女性部会が「長岡まつり大花火大会見学ツアー」にて研修会

8月3日～4日と開催された「長岡まつり大花火大会」、女性部会研修会として参加してきました。参加者は総勢28名、仙台駅東口を午前9時に出発、途中会津若松市に立ち寄り昼食、その後宿となる燕三条駅傍のホテルで一旦休憩した後、長岡市内の花火会場に向かいました。



さあ、いよいよ始まるぞ、楽しまなくちゃ！

長岡の大花火には例年90万人を超える観客が集まります。天気にも恵まれた今年も予想通りの賑わい、大変な人出でした。そもそも長岡まつりのルーツは、昭和20年8月の空襲による犠牲者の慰霊と復興を祈願（その後、平成16年の中部地震での犠牲者の鎮魂と復興も併せるようになった）したものだそうです。日本の三大花火のうち大曲や土浦のものは花火そのものの技術を競う技花火なのに対し、長岡の特徴はスケールが大きく多彩で、見る人を大いに楽しませるところにあるようです。お腹に響きわたる爆音とともに次々と打ち上げられる大輪の花火、観客から何度も大歓声が湧き上がる中、メインの尺玉百連発花火になるや観客も総立ちに、想像を絶する迫力満点の花火に「すごい！」と大満足の様子でした。

あっという間の二日間でしたが、食べて、飲んで、語って、笑って、たくさん買い物をしてと、和やかで充実したツアーとなりました。

## YOUYOUクラブ部会が「芋煮会」を開催

10月22日(日)、今年も名取川沿いの茂庭荘で台風が

接近する大雨の中、36名の出席を得て恒例の「芋煮会」を開催することができました。大坪代表理事の挨拶・乾杯で始まりましたが、今回はあいにくの天候で気温が上がらないことから、冷たい飲料水を少なめにし、お湯・熱燗、そして暖房も兼ねて炭も多めに用意しました。ところが意外にも大いに盛り上がり、寒さも吹っ飛んでしまうほどの盛り上がり様でした。偶然にも去年と同じ宮城広島県人会と隣り合わせに、プロ野球セリーグ優勝も重なって今年もまた広島風お好み焼きの差し入れをいただきました。その上茂庭荘の温泉を楽しむ方も……、11:00(開始)から15:00(帰りのバス時刻)ぎりぎりまで、和気あいあいと楽しむことができました。



皆さん楽しそうですね

## 香港から「グルメ関連メディア」を招聘

10月16日(月)～20日(金) 宮城県とJETRO仙台が、香港のグルメ情報誌『Umai Magazine』の記者で香港屈指の食品飲料評論家・李婉君(Yuen-Kwan Lee)氏と、専属グルメカメラマン陳溢宏(Yat-Wang Chan)氏を招聘、「三陸グルメ」をテーマに石巻魚市場や気仙沼の魚加工工場等を視察、宮城県食品の「安全性」と「美味しさ」をアピールしました。李氏は数々のブームを巻き起こし、香港での新しいライフスタイルを発信・提案し続けている評論家、きっと食材王国宮城の「海の幸」を広めてくれることでしょう。



狐崎漁港カキ養殖場視察 写真：日本貿易振興機構 (JETRO) 提供



## 沖縄日本香港協会 事務局

### 沖縄日本香港協会総会開催

平成29年度沖縄日本香港協会通常総会が9月1日(金)ネストホテル那覇2階カシオペアで開催された。平成28年度事業報告および収支決算、平成29年度事業計画及び収支予算が承認された。事業計画及び収支予算では、香港貿易発展局が主催する展示会等への参加の促進、香港フォーラム参加者の強化を目的として、香港フォーラムの登録料の事務局助成が承認された。

#### ◆「香港ビジネスセミナー『一带一路』シルクロード経済圏と香港」開催

沖縄日本香港協会通常総会終了後、同ホテルにおいて、「香港ビジネスセミナー『一带一路』シルクロード経済圏と香港」が開催された。

講師には、香港貿易発展局大阪事務所長伊東正裕氏をお招きし、中国が進める「一带一路」構想について講演を頂いた。

一带一路の対象国は65か国に上り、新規事業の機会が見込まれる産業としては、①インフラ建設関連産業 ②交通・輸送関連産業 ③エネルギー産業 ④貿易・観光産業を挙げ「一带一路」は構想から実行段階に移っていることが説明された。日本でも安倍首相が、「国際社会の共通の考え方を十分に取り入れることで、環太平洋の自由で公平な経済圏に良質な形で融合し、地域と世界の平和に貢献していくことを期待する」と発言。条件付きながらも「一带一路」構想への協力を表明している。



香港ビジネスセミナー

伊東氏は、「一路である海のシルクロードに関して、銅の精錬技術・クリス刀の伝播が沖縄の久高島経由で出雲・伊勢に伝わった歴史的な検証がある。沖縄は一带一路でもビジネス機会が充分にある。また香港は一带一路構想に基づく、グローバル市場へのゲートウェイとしての役割が益々高まっている。香港を通じてビジネスチャンスにつなげて頂きたい。」と強調された。

### 「沖縄ナイト in 香港2017」開催

沖縄県と沖縄観光コンベンションビューローの主催による「沖縄ナイト in 香港2017」が10月25日にカオルーン・シャングリラホテルで開催された。

「沖縄ナイト in 香港」は香港市場において「閑散期となる冬場の誘客拡大」「離島の認知度向上」「沖縄の工芸品や食材のブランディング」の実現を目的として開催され、今年で2回目となる。沖縄観光への協力に感謝の意を表し、香港の主要航空会社や旅行社、観光関係業者などを招待、約290人が参加し、沖縄料理や芸能を楽しんだ。この沖縄ナイトの開催により、香港の旅行業関係者へ発信・共有し、戦略的パートナーとなるエアライン、旅行会社、メディア、物産関係者等とのコネクションの強化が期待される。

併せて、「沖縄ナイト in 香港2017」の前日には沖縄観光の方針ならびに取り組みを発信する「沖縄観光セミナー・沖縄観光商談会」も開催され多くの参加者があった。



平成29年度沖縄日本香港協会総会



## 広島日本香港協会事務局 水野 修一

### 平成29年度通常総会・交流会開催

広島日本香港協会では、去る7月4日(火)、平成29年度通常総会・交流会をオリエンタルホテル広島にて開催しました。出席者は33名で、会員企業様のほか香港貿易発展局のサイラス・チュー日本首席代表、大阪事務所の伊東所長にもご出席いただきました。

#### ◆平成29年度総会

冒頭、当協会の深山会長（広島商工会議所会頭）から、本協会が平成28年7月香港で開催された「香港ブックフェア」に出展し広島県の魅力情報を発信する地域プロモーションを行ったこと、平成29年5月には広島で「香港バイヤー招聘食品相談会」を開催し15社が参加、ホテル会場や企業本社などで商談し大きな成果があったこと、今後ともこれまで以上に会員企業のサポートとなる事業を計画・実施していきたいことなどの挨拶がありました。

サイラス・チュー日本首席代表からは、香港貿易発展局が日本と香港とのビジネスに強い関わりを持っており、主催する見本市やイベントを機会として、世界市場へのビジネスを拡大してほしい、とのご挨拶をいただきました。

その後、平成28年度事業報告・決算報告、平成29年度事業計画・収支計画などの議案について満場一致で承認され、閉会しました。

#### ◆交流会

総会に続き、香港貿易発展局の来賓の皆様にも引き続きご参加いただき、交流会を開催しました。当協会役員でクニヒロ株式会社の川崎社長に挨拶をいただいた後、会員同士、活発に懇談し交流を深めました。サイラス・チュー日本首席代表は、参加した会員企業の一人ひとりに挨拶に回り名刺交換され、香港での海外活動についての意見交換をされ、「広島県には多くの強い産業セクターがあり、香港をプラットフォームとして活用してほし



交流会の様子

い」と訴えておられました。参加した会員企業も貴重な機会に喜んで、熱心に耳を傾けていました。

この場をお借りして、お忙しい中、ご参加いただきました会員の皆様、香港貿易発展局の皆様に厚く御礼申し上げます。

### 香港と広島の交流

香港と広島の交流は、近年は広島への観光客の増加という特徴を見せており、特に平成27年8月の直行便就航以降は顕著となっています。広島県の統計によりますと、平成28年の香港から広島への観光客数は、対前年増減率189%となりました。香港との直行便が週3便就航していること、また大型客船の寄港増加等により、観光客は他からに比べ圧倒的に増加しております。

#### 広島県の外国人観光客数動向（単位：人）

	平成28年	平成27年	対前年増減率
総数	2,014,826	1,660,713	21.3%
うち香港	173,187	59,851	189.4%

広島としても、香港の方に人気の高い宮島、平和記念公園、うさぎの島として有名な大久野島、尾道・しまなみ海道サイクリングなどに加え、レンタカー利用増加に対応して県北地方の魅力や、グルメで人気の牡蠣、お好み焼き、尾道ラーメンなどの情報もさらに発信し、香港の方に広島を楽しんでいただくこととしています。

広島日本香港協会としても、インバウンドビジネス掘り起こしのため、平成30年2月に「香港等からの訪日客を対象としたインバウンドセミナー」を計画しています。会員企業は食品製造・小売・サービス業の割合が高く、インバウンドビジネスへのニーズは高いものと考えられます。また、既存の観光資源のみでなく、体験型等のコト消費、多言語化、効果的なPR方法などのアドバイスも得られると考えております。

広島日本香港協会は、今後とも香港と広島の交流とビジネス発展のため貢献していきたいと考えています。



深山会長挨拶

# NIIGATA



新潟日本香港協会 事務局長 田中湖雄

## 地方への香港インバウンドの誘い

2016年に日本へのインバウンドは待望の2,000万人を大きく上回り2,403万人という驚異的な数字を達成しました。2017年は間違いなく前年を上回ると言われています。観光庁は東京オリンピックが開催される2020年には4,000万人という目標を立て、官民が連携してその目標に向かって努力しています。

これまでは日本へのインバウンドというとその大半が東京～富士・箱根～京都～大阪、いわゆるゴールデンルートが中心でしたが、少しずつ地方への回遊が増えてきているようです。しかしながら新潟県の場合はまだまだその恩恵が薄く、あらゆる面で努力する必要があります。

ところで先日世界の多様な美しさと知性を持ち合わせたミス・インターナショナル世界大会2017に出場する各国の代表72名が、本選を前に新潟を訪れました。もちろん香港代表のウィン・ウォンさん（写真）も一緒です。彼女たちは新潟市内の各地を回り日本や新潟のおもてなしの心などの文化に触れ、母国に帰国したのちは見聞したさまざまについて発信し、日本と世界の架け橋になってくれるよう期待されています。香港代表もきっと日本や新潟の魅力について発信してくれることでしょう。

しかしながら新潟空港にはまだ香港国際空港との定期便がありません。現在香港国際空港と定期便が就航しているのは、羽田、成田、関空、名古屋中部、福岡、札幌、岡山、広島、米子、高松、宮崎、鹿児島、沖縄、石垣の各空港です。このように成田から北は札幌までありません、まさに西高東低なのです。それでも香港から日本

の空港への乗入れは多く、いかに香港での日本への人気が高いかがうかがい知れます。実際に訪日経験回数（リピート率）は非常に多く、日本政府のビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）重点20市場の中で第1位です。

現在新潟県では新潟空港と香港国際空港との間に初の定期便を誘致しようとの動きがあるようで、これは大いに期待したいところです。実現するとしたらおそらく格安航空会社とも呼ばれる



LCC（ローコストキャリア）になるのではないかと思います。もし実現すればこれによって新潟県を訪れる香港からのお客様が飛躍的に増え、今まで以上に新潟県の魅力を経験していただくことが出来ます。よくインバウンドでのご当地自慢として「おいしい食」「温泉」「おもてなしの心」と3つの「お」を強調する自治体が多いのですが、実はこれは47都道府県どこにでも当てはまることなのです。訪日経験回数の多い香港のお客様にとってこれだけでは新潟県魅力を伝えることは出来ず、受け入れ側も更にそれらをブラッシュアップするとともに、新潟県のキラーコンテンツを確立することが必要だと思います。

またインバウンドにおいて行政区を越えた広域観光が叫ばれて久しいのですが、隣接県（山形県、福島県、群馬県、長野県、富山県）はもちろんのこと、首都圏などの関東圏や日本海側の北陸圏、仙台以南の南東北圏との連携が重要なポイントとなってくるはずですが、特に南東北圏には同じく日本香港協会に所属する宮城日本香港協会と山形日本香港協会がありますので、お互いに情報を交換し広域観光ルートを構築し、新たな広域観光圏を確立するといいいのではないのでしょうか。仙台空港には以前は香港国際空港との間に定期便が就航していましたが、東日本の空白地域をカバーする意味でも一日も早いその再開を願い、将来的には新潟空港とのそれぞれの国際定期便利用連携を推し進めてみてはいかがでしょうか。香港との国際定期便は就航を実現することが目的ではなく、利用し継続させてこそその本来の目的が達成できるものです。そのためには香港からのインバウンドだけでなく、新潟空港や仙台空港を利用してのアウトバウンドもそのインバウンドと同等に重要です。香港からのお客様と同様に私たちも何度も何度も香港を訪れてみませんか、ミス・インターナショナル世界大会2017できっと入賞することであろう香港代表のウィン・ウォンさんにも会いに行きませんか。





## 高知日本香港協会

## 香港・食品セミナー&amp;商談会開催

高知日本香港協会も、おかげさまで2017年6月1日に1周年を迎えて、今回初めての通常総会（記念総会）を開催しました。そして、香港貿易発展局からのご提案をいただき、総会に合わせて、高知県内の生産者様、食品加工会社様が集い、『香港・食品セミナー&商談会』を開催いたしました。高知県は香港との直行便はないものの、特に食品分野において既に香港進出を果たしている企業様がいくつもございます。中国への自由経済のための窓口であり、中東やヨーロッパにもつながりを持つことができる香港は、“食材の宝庫”と海外からの旅行客からも評価の高い高知県にとって、海外進出をしていくための理想的なプラットフォームでもあります。高知新港には、大型客船の寄航回数が年々増えており、今後は貿易での利活用を踏まえての香港との結びつきを強くすることで、高知の経済や文化の発展に向けて、新たな局面を迎えることだと官民ともに、期待がどんどん大きくなってきています。

今回、高知日本香港協会が開催したセミナー&商談会では、香港の大手外食チェーンのMX Supply Chain Ltd. から日本での仕入れを担われているサプライチェーン・マネージャーのケルビン・サム氏をお迎えし、「香港マキシム・グループの紹介と香港食品事情」というテーマで香港の現状を伝えていただくお話をい



“食品セミナー”香港貿易発展局大阪事務所所長伊東正裕氏の登壇

ただきました、当日は41名の方にご出席をいただき、高知県の食材や特産品などの高知県下の企業様の香港を基点とした海外展開に貢献す



通常総会懇親会 参加者のみなさまとの記念撮影

るよき機会となりました。

また、香港への輸出を目指した食品商談会では、高知の地元の食品、加工食品をプレゼンテーションしながら試食、試飲をするという、現地での展開を想定した商談と相談が行われました。香港ビジネスのヒントをそれぞれが得て、お越しいただいた参加者の方々にとっても希望に満ちた時間となっていました。高知日本香港協会では、2018年2月21日に2回目の“春節セミナー”を開催します。その際にも、このような会員様だけでなく、日本香港協会や貿易発展局の活動を広げていくような機会を作っていきたいと思えます。

高知日本香港協会も、現在、総会員数が33名（法人15社・個人18名）となりました。来年は、前号の飛龍86号にも掲載した毎年10月3日に約300名の企業様、個人様が参加をする“土佐の日”のイベントとコラボをしていくことも決まりました。「飲んで、食べて、幸せを感じて」という高知ならではの文化とともに、様々な高知を香港から世界へと展開していきたいと存じます。



ケルビン・サム氏との香港への輸出を目指した食品商談会の風景

.....  
(7ページより続き)

交流が活発で、西高東低と言われる。例えば、福岡で早朝とれた魚がその日の午後には香港に運び込まれ通関の煩雑さもなく夕方には日本料理店で供され、驚くことに東京で入手するより早い。

最近ではJETRO香港が受ける相談で農林水産・食品・外食に関連することが最多である。

## (3)インバウンド元としての香港

日本へのインバウンドでは、本年は香港人の220万人が日本に旅行する。換言すれば全香港老若男女の4人に1人は毎年日本に旅行するのであり、結びつきの深さが示される。エピソードとして、香港人と台湾人の違いが紹介された。共に訪日者は多いが、香港人は知的好奇心が旺盛、新しく珍しいものコト（体験）が好きであり納得させる理屈が必要である。常に発信するものがある「日本」が好きである。台湾人は基本的に「日本人」が好きで日本に向くとの方見方分析があった。

最後に、近年は日本の地方と香港の結びつきが益々強まっていると見られるとJETROの立場からの印象、具体事例が述べられた。



## 1 時間、3 時間、5 時間で 東京を散策する

限られた自由な時間内で、あなただったら、何をしますか？

**StayInspired.jp** では、東京に“出逢う”ことができる、他にはない洗練されたプランをご提案しています。

CONRAD  
HOTELS & RESORTS\*

NEVER JUST STAY. STAY INSPIRED.  
コンラッドに滞在すること。その街に出逢うこと。

ASIA EUROPE AFRICA MIDDLE EAST AMERICAS  
CONRADTOKYO.COM #STAYINSPIRED